

長崎県立長崎鶴洋高等学校 平成24年度 学校評価表

※評価基準

各学期の欄に、下記の4～1の評価を記入してください。(総合評価は各学期の平均《小数第1位を四捨五入》を記入)

4:十分達成できている 3:おおむね達成できている 2:どちらかというと達成できていない 1:ほとんど達成できていない。

1 学校経営 全職員が共通の理念に立った学校経営に対する教育成果の評価

評価項目	具体的目標	評 価				成果と課題
		1学期	2学期	3学期	総合評価	
①規範意識を育てる	生徒会を活用することにより、生徒自らルール作りをさせる。	2.5	2.8	3.0	2.8	生徒会によるルールづくりができた。
	マナー講習会や職場体験の中で、社会のルールを学習させる。	2.8	2.9	3.0	2.9	
	指導にあたっては、すべての職員が、「社会で許されない行為は学校でも許されない」とする毅然とした態度で指導する。	3.0	3.1	3.3	3.1	
	カウンセリングマインドを持って生徒と親身になって接し、生徒の悩みやつまずきに適切な対応をする。	3.0	3.1	3.2	3.1	
②基本的生活習慣の定着を図る	生徒指導部、担任を中心に家庭と連携し、全職員で遅刻・欠席の指導を徹底する。	3.2	3.1	3.4	3.2	欠席10名以内、遅刻5名以下を達成することがなかなかできなかった。次年度は、何らかの対策を立てて目標を達成できるようにしなければならない。
	服装・頭髪指導を徹底し、家庭と連携し改善するまで指導する。	3.1	3.0	3.4	3.2	
	あいさつ、適切な言葉遣いや身だしなみができるよう、全職員で適宜指導する。	2.9	2.8	3.1	2.9	
	毎日の出欠状況は、全校で遅刻5名以下、欠席10名以内を目標とし、10日以上連続して遅刻・欠席ゼロ日が続くことを目標とする。	2.8	2.4	2.7	2.7	
③生徒一人ひとりの進路実現を図る	基礎学力向上のために授業・補習授業の充実を図る。	2.9	2.9	2.9	2.9	学年単位で基礎学力向上のための取り組みを始めたことは、次年度につながるよい傾向であると思われる。
	生徒一人ひとりが、自己の生き方を考え、職業についての知識をひろめ、自分の進路に主体的に取り組めるようサポートする。	2.8	2.8	2.9	2.9	
	生徒一人ひとりが、自己表現をすることができる確かな学力を身につけるよう指導する。	2.8	2.6	2.8	2.7	
④わかる授業で基礎学力の定着を図る	生徒一人ひとりの学力を把握し、個人指導を含め生徒のつまずきを指導する。	2.8	2.9	2.9	2.8	生徒の授業評価を受けて、授業改善に取り組んでいる。今後、生徒のつまずきについての指導を進めていく必要がある。
	生徒の授業評価をもとに授業改善に努め、学習意欲を高める授業を展開する。	2.9	3.0	3.0	3.0	
	各教科・類型の年間指導目標を明確にし、具体的方策に従って指導する。	2.8	3.0	3.1	3.0	
⑤キャリア教育の充実を図る	3年間を通した組織的・系統的なキャリア教育を行うための指導方法・指導内容について研修を深める。	2.7	2.5	2.9	2.7	インターンシップについては、来年度以降水産科の参加についても検討していく必要がある。新課程においては、水産科2年においても、総合的な学習の時間を設定する。
	生徒が自己の目指す将来の職業やその分野に関する具体的な情報を得たり、必要な資質・能力をより深く自覚し、専門的な知識・技能を一層高めようとする意欲や姿勢を身につけさせる指導を行う。	2.8	2.7	3.0	2.9	
	就業体験等を通し、勤労の尊さや創造することの喜びを体得させ、望ましい勤労観・職業観を育成する。	2.9	3.0	3.2	3.0	
⑥特別支援教育の充実を図る	全職員について、発達障害への理解を徹底する。	3.1	3.4	3.3	3.2	特別支援教育たよりの発行、及び職員研修会での研修を継続する。
	校内の掲示物、生徒への連絡方法について、全生徒にわかりやすいユニバーサルデザインを考案し実現する。	2.8	3.4	3.4	3.2	全学級で統一した取り組みが出来た。新たな実践を検討する。
	通常学級内における支援策を策定し、生徒の学力、コミュニケーション能力の向上を図る。	2.8	3.1	3.0	3.0	アセスメントについて不十分であった。新たなアセスメントに取り組む。

2 学年経営 学年経営全般における計画的・組織的な教育成果の評価

評価項目	具体的目標	評価				成果と課題
		1学期	2学期	3学期	総合評価	
①1学年	基本的生活習慣を確立させ、思いやりのある心を育成する。	3.0	2.9	3.0	3.0	学年として基礎学力向上のための対策を実施した。今後も継続的な取り組みが必要である。 類型及び科目選択は概ね生徒の希望通り行うことができた。
	基礎学力の向上を目指す。	3.0	2.8	3.3	3.0	
	生徒の希望進路に応じた類型(水産科)及び科目(水産科、総合学科)を選択させる。	2.9	3.1	3.3	3.1	
②2学年	服装・頭髮違反生徒の指導を充実させ、端正な身なりで学校生活を送らせる。	3.0	3.0	2.9	3.0	欠点数10科目で1年次と比べると倍(退学者を含む)になっている。特に一人で複数科目の欠点を抱える生徒がいる。各種の学習への取り組みについては、当然意識が芽生えてきていると感じられる。 自己中心的な行動については、気づいたときにショート学年集会で対応した。教師の話は、生徒の心に影響を与えることは日頃の生徒との会話でわかる。今後も月1回のショート学年集会は有効な手段だと思ふの継続した方がよい。
	集団行動を意識させ、自己中心的な行為をさせない。	3.1	3.0	3.2	3.1	
	家庭学習の習慣を確立し、学力を向上させる。	2.7	2.7	3.0	2.8	
③3学年	関係分掌との連携をはかり、進路指導、生活指導の充実に努める。	3.0	3.1	3.4	3.2	進路情報の提供が不足していたというか、各生徒の個性を見極めた進路指導が十分行き渡らなかったのではないかと。思うように保護者との連携が不足していた。もっと保護者と時間をかけて話し合わないことと担任と生徒の範囲だけで受験先を決めてしまうことになる。基本的生活習慣において欠席・遅刻が多く、生徒指導関係で指導を受ける機会が多かった。
	生徒の能力や適性に応じた進路選択を支援するため、情報の提供と面談の充実に努める。	3.0	3.1	3.2	3.1	
	進路目標実現のために必要十分な学力とともに、社会の一員としてのマナーを身につけさせる。	2.9	2.9	3.1	3.0	

3 校務分掌 各校務分掌の教育活動全般における計画的・組織的な教育的成果の評価

評価項目	具体的目標	評価				成果と課題
		1学期	2学期	3学期	総合評価	
教務部	水産科の類型及び総合学科の系列について再検討する。	3.2	3.3	3.5	3.3	水産科及び総合学科の教育内容の検討を重ね、生徒の多様性や新学習指導要領にあわせた教育課程を編成することができた。
	履修と修得の理解を徹底し、学習する動機を高める。	3.1	3.2	3.4	3.2	
	長崎鶴洋高校独自の学校設定教科・科目及び選択科目の設定を行う。	3.3	3.6	3.5	3.5	
	生徒の多様な進路に対応した教育課程の編成を目指す。	3.3	3.4	3.0	3.2	
	乗船教育における訓練記録簿の効率的な活用に努める。	3.1	3.2	3.4	3.3	実習船の乗組員、指導教官、学級担任、養護教諭で生徒に関する情報交換を行うとともに学級担任、生徒指導主事及び関係職員で、乗船中の事故や問題行動がないよう事前指導を重ね、何事もなく実習を終えることができた。
	乗船中の生徒に関する情報交換を密にする。	3.3	3.5	3.4	3.4	
	事前指導を徹底し、乗船中の事故や問題行動をゼロにする。	3.1	3.1	3.0	3.1	
	教育効果を高めるため、実習船における寄港地活動を充実させる。	3.2	3.1	3.3	3.2	
	水産教育の実践的教育の場として、種苗生産・養殖技術を習得できる授業を展開する。	3.3	3.3	3.4	3.4	交流学习や初任研で臨海実習場を活用するなど、多くの人が「水産」について学べる教育施設となっている。
	地域との連携を緊密にし、多くの人が「水産」について学べる教育施設とする。	3.2	3.0	3.3	3.2	
	水産生物の飼育・管理を充実し、地域の水産業へ貢献する。	3.3	3.3	3.4	3.4	
	ホームページの更新により、学校の様子を随時公開する。	3.6	3.6	3.5	3.6	
	NEWS(県立学校校務事務支援システム)への円滑な移行に努める。	3.3	3.7	3.5	3.5	ホームページは機会あるごとに更新している。今後、保護者の立場に立ったホームページ作りを検討していく必要がある。 校務事務支援システムへの移行については、担当者の努力もあり、円滑に行われている。
	情報セキュリティの徹底を行う。	3.3	3.7	3.6	3.5	
	ハードウェア及びソフトウェアの充実と校内LANの保守を行う。	3.2	3.4	3.6	3.4	
	教職員の教育に関する技術や指導力の向上を目指し、校内外の研修の案内と円滑な実施に努める。	3.0	3.2	3.4	3.2	授業に関するアンケートを計画通りに実施し、教職員自ら授業を見直す機会となっている。今後、質問事項については検討する必要がある。
	かけがえのない自他の生命を尊重する心の育成を目指し、人権同和教育や平和学習など生徒に対する指導を計画的に行う。	3.1	3.5	3.5	3.4	
	1・2学期末に生徒の「授業に関するアンケート」を実施し、生徒、教職員ともに授業の改善に役立つものとする。	3.3	3.1	3.4	3.3	

評価項目	具体的目標	評価				成果と課題
		1学期	2学期	3学期	総合評価	
企画広報	保護者の学校行事への参加を促す。	3.0	3.1	3.2	3.1	メールシステムを利用した呼びかけを始めた。登録者の増加が課題である。
	学校便りを年6回発行し、中学校や学校近辺の自治会に配布する。	3.4	3.3	3.2	3.3	学校行事等と自治会の配布の時期が合わないときがあり、タイムリーな情報を発信することが難しい。
	広報用ポスターを作成し、学校近辺の中学校へ展示する。	2.7	3.1	3.2	3.0	
	地区別学校説明会の実施場所、時期と内容を検討し、昨年度以上の参加者増を目指す。	3.0	3.3	3.4	3.2	来年度からの機械系列の新設のため関心が高かった。
生徒指導部	日課を守ることで、基本的生活習慣を身につけた寮生を育成する。	3.1	2.8	3.5	3.1	地域からの苦情の件数が減少し、遅刻する生徒の数も同様であった。欠席の数をもう少し減らしたい。
	団体生活を意識させ、他人に迷惑となるような行為をしない寮生を育成する。	3.0	2.5	3.5	3.0	
	授業開始時刻を守らせる。	3.0	3.0	3.0	3.0	来年度は2分前着席の定着を計りたい。朝8:30からの学習と読書による朝の静寂な時間を共有し、まず心を落ち着かせたい。
	服装頭髮指導を徹底する。	3.0	2.8	3.5	3.1	
	特別指導(事後指導)を充実させる。	3.4	2.8	3.5	3.2	事後指導にもう少し担任・学年団が加わって生徒の指導にあたりたい。
	地域等からの苦情等へは、柔軟に対応する。	3.5	3.3	4.0	3.6	生徒指導研修会においての指導の意思疎通を職員間で計り、年度当初の継続的に緊張感を持続して生徒理解に勉めたい。
	登下校指導と校外内の巡視を強化する。	3.4	3.3	4.0	3.5	
	生徒指導ハンドブック、危機管理マニュアルを活用し、教職員間の共通理解に努める。	3.3	3.0	3.5	3.3	
進路指導部	自己実現を念頭に置いた学力向上の重要性を生徒に認識させ、安易な進路選択に陥らないための指導を試みる。	2.9	2.4	2.8	2.7	進学希望者は県内私立大学や専門学校が中心となり、ほぼ希望通り進学できた。医療系専門学校には合格者が少なく、入試対策が不十分と思慮される。
	進路情報の提供を通して、生徒の自己理解と進路に対する関心を高めさせ、主体的な進路設計や選択する力を育成する。	3.0	2.6	2.8	2.8	
	生徒一人一人の情報を共有し、早めの意識づけと進路実現に向けた活動に取り組ませる。	3.1	2.3	2.8	2.7	
	生徒、保護者、企業との連携を図り、就職に関わる情報交換を密にする。	2.9	2.4	2.6	2.7	就職希望者は、学校紹介ではほぼ全員内定を頂いたが、縁故就職者の進路先報告書の未提出が見られる。職安紹介は卒業式以降に内定が始まっているので、報告を待っている状態である。
	「進路ノート」を3年間通じて活用させ、進路実現に向けて段階的に就職活動の支援を続ける。	2.7	2.4	2.6	2.6	
	生徒の就職内定率90%以上を目指す。		3.0	3.0	3.0	
	1年生では、自己理解、産業・職業理解にもとづく、将来のキャリア設計を描かせ、適切な類型選択・科目選択を支援する。	2.9	2.9	3.3	3.0	
	2年生では、体験的な活動等により社会の仕組みや産業・職業への理解を深め、自己の適性や能力に気づかせ、望ましい勤労観・職業観を育てる。	2.9	3.0	3.3	3.1	
	3年生では、各個人・グループが設定した課題に基づく探求的な学習活動により、自己の在り方や生き方を考察させる。	3.0	3.0	3.3	3.1	
	水産科・総合学科全学年による生徒総合発表会を3学期に実施し、表現・発表力を養う。		3.0	3.5	3.3	

評価項目	具体的目標	評価				成果と課題
		1学期	2学期	3学期	総合評価	
生徒会指導部	生徒会活動及び学校行事をとおして、生徒の自主精神を高める。	2.9	3.3	3.4	3.2	生徒会役員は会長を中心に活発な活動をみせた。今後は全体への波及を促す活動も行わせたい。 統廃合も含め今後も継続した話し合いが必要 今年度、大きな行事に取り組んだことで、個別の委員会活動の活性化を図ることができなかった。 生徒会役員を中心に鶴南祭など積極的に参加した。 職員数の減などにも伴い、監督・担当区域について再検討の必要がある。 生徒会を通じ、継続した形で浸透させていきたい 回数についても再検討の余地有り 大きな問題はなかったが、複数の分掌が集まった形がスムーズに進行したとは言い難い。 希望に応じて安定してかつ継続した図書の購入ができた。
	部活動の活性化とPRを図るため、生徒会と部活動顧問・担任との連携に努める。部活動の結果は、逐次HPに掲載する。	3.0	3.0	2.9	3.0	
	各分掌と協力して委員会活動を行う。1学期に1回は委員会活動を行い、各クラスの専門部を行動させる。	2.8	2.8	2.9	2.8	
	地域社会に貢献するボランティア活動や地域の行事に積極的に参加させる。	2.8	3.0	3.1	3.0	
	日々の掃除活動を徹底させる。	3.0	3.0	2.9	3.0	
	分別収集を習慣づけさせる。	2.7	3.0	2.9	2.9	
	大掃除は全員で取り組み、更衣をして行わせる。	3.3	3.0	3.4	3.2	
	生徒指導等、他の分掌の連携に努める。	3.0	2.8	3.1	3.0	
	生徒の興味・関心・希望を考慮した図書を選書し購入する。	3.1	3.0	3.3	3.1	
教育相談部	カウンセラー便りを毎月1回以上発行し、生徒や保護者に対して情報を提供する。	3.2	2.3	3.3	2.9	カウンセラーたよりを特別支援教育たよりとして2学期途中から発行した。 生徒には周知できたが、保護者への連絡方法を検討する必要がある。 該当する生徒の面談を行ったが、遅刻と欠席を繰り返す生徒もいた。 一時的な感情を記入する場合もあり、分析方法を検討する必要がある。 情報交換を密に行ったが、改善できない事例も複数あった。 全体の傾向把握できたが、個別支援のためには情報が足りなかった。 全号発行した。啓発を深めるためには、読書の時間等の利用が必要。 2回実施した。危険箇所の認識には日常の観察が不可欠。
	スクールカウンセラーの来校日と相談時間を公開することで、生徒・保護者・教職員が相談しやすい環境を作る。	3.8	3.5	3.8	3.7	
	毎月欠席5日以上、遅刻3回以上の生徒に対して、担任と相談のうえ、面談等の措置をとる。	3.3	3.2	3.3	3.3	
	各種検査や悩みの調査を実施して、その分析結果を担任に伝え、生徒理解のための情報を提供する。	3.3	3.2	3.5	3.3	
	支援の必要な生徒に関する情報交換を、担任や生徒指導部と綿密にすることにより、不適應の早期発見と支援に努める。	3.3	3.7	3.8	3.6	
	生徒の実態把握調査をもとに、支援を必要とする生徒について適切な情報を提供する。	3.2	3.0	2.8	3.0	
	保健便りを月1回発行し、生徒・保護者に感染症防止を含めた健康増進を啓発する。	3.7	3.7	3.8	3.7	
	校内施設安全点検を年2回実施し、危険箇所をチェックする。	3.2	3.2	3.3	3.2	

4 道徳教育 各分掌、学年、教科における道徳教育の成果の評価

評価項目	具体的目標	評価				成果と課題
		1学期	2学期	3学期	総合評価	
道徳教育	学校行事やボランティア活動への積極的な参加を促し、他に協力することや人を思いやることの大切さを学ばせる。	2.9	3.0	3.0	2.9	生徒会を中心として、ルールづくりをすることができた。学校行事等において積極的に活動し、仲間意識や協力することの大切さをまなぶことができた。
	夢を持ち、その実現に向けて積極的に学校生活を送る生徒を育てる。	3.0	2.8	2.9	2.9	
	規範意識を身につけ、良識ある行動ができる生徒を育てる。	2.9	2.9	2.9	2.9	
	毎月一人一冊以上の読書を目標とし、読書活動の活発化に努める。	2.7	2.8	2.9	2.8	
	志を高く持ち、その実現のために努力する生徒を育てる。	2.8	2.8	2.8	2.8	

5 開かれた学校 保護者や地域等との連携における教育的成果の評価

評価項目	具体的目標	評価				成果と課題
		1学期	2学期	3学期	総合評価	
開かれた学校づくり	PTA総会や地域開放講座などを利用し、保護者、地域住民向けの行事を企画する。	3.0	3.0	3.2	3.0	長崎っ子の心を見つめる教育週間で集中的に実施した。
	学校便りを発行し、保護者のみならず、町内など近隣の自治会などにも配る。	3.0	3.2	3.2	3.1	
	子育てについて保護者がスクールカウンセラーに相談できる機会を計画的に設け、保護者に案内する。	3.3	3.1	3.3	3.2	

6 特別支援教育 各分掌・学年・教科(授業)における特別支援教育の成果の評価

評価項目	具体的目標	評価				成果と課題
		1学期	2学期	3学期	総合評価	
特別支援教育	発達障害の職員研修会を実施し、発達障害のある生徒について理解を深める。	3.4	3.7	3.5	3.5	外部講師による研修会を3度実施した。定期的な研修が必要。研修等の様々な機会を通して、発達障害に対する理解を深めることができ、職員意識も少しずつ変わりつつあると思われる。各教科で1科目の実践を行った。次年度では全科目で実施する。各学級担任の努力が大きい。共通した取り組みの実践を検討する。
	各教科ですべての生徒にとってわかりやすいユニバーサルデザインの授業を考案する。	3.0	3.1	3.4	3.2	
	個人の特性に応じた進路指導のありかたを検討し、適切な類型及び系列の選択、就職及び進学指導を行う。	3.0	3.1	3.1	3.0	

<学校評価表作成要領>

- ① 1 学校経営については、校長が評価項目を定め、各評価項目について具体的目標を挙げる。
- ② 2 学年経営、3 校務分掌については、各学年・分掌で検討し、H24努力目標(校長作成)に基づいて具体的目標をそれぞれ挙げる。
なお、具体的目標の設定にあたっては、具体的な数値目標を掲げる。
- ③ 4 道徳教育については、H24道徳教育全体計画に基づく道徳教育の重点目標を挙げる。
- ④ 5 開かれた学校については、校長が具体的目標を挙げる。
- ⑤ 具体的目標の原案については、運営委員会・職員会議において、H24努力目標にきちんと基づいているかを検討する。
- ⑥ 具体的目標の評価は各学期末、総合評価は年度末に行う。また、評価項目全体における成果と課題は、年度末に記入する。
- ⑦ 保護者・生徒へのアンケートを年度末に実施する。